

# 第43回 大阪市立大学医学部附属病院 医療連携 Face to Faceの会

## 病院長挨拶

盛夏の候、皆様には益々ご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

日頃から大阪市立大学医学部附属病院との医療連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてFace to Faceの会につきましては、昨年度からCOVID-19感染拡大に伴い開催を見合わせており、今年度最初のFace to Faceの会を6月に開催する予定で準備を進めて参りましたが、大変残念ではございますが、6月開催を見合わせる事となりました。そのため今回は文面開催とさせていただきます、新任教授の紹介（令和2年度、令和3年度着任）、今年3月に実施したアンケート結果等を掲載いたします。

当院も大阪府・大阪市からの要請のもとCOVID-19重症患者受入を行っている状況ではありますが、ご紹介いただいた患者さんが、安心して外来受診、入院治療が出来るように万全の体制を整えており、この難局を皆様と共に乗り越えられるよう尽力して参ります。

今回は11月の開催を予定しており、現在実施されているCOVID-19に対する取り組みが功を奏し、Face to Faceの会の名のおり顔を会わせて、情報交換が出来ることを期待したいと思います。

末筆ではございますが、皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。



大阪市立大学医学部附属病院  
病院長 平田 一人

## 患者総合支援センター長挨拶

日頃より地域医療連携にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて昨年4月に患者総合支援センター長を拝命後、COVID-19感染拡大に伴いFace to Faceの会を開催できぬまま1年が経過いたしました。この間「患者総合支援センターたより」を発刊し、積極的な情報発信を行い、また日頃の医療連携に対するアンケートを実施させていただきました。私自身、過去のFace to Faceの会を通じて地域の先生方とお会いさせていただいておりましたので、顔の見える関係が医療連携において最も重要だと考えております。平田・柴田 歴代センター長が築き上げられた良好な関係を維持しつつ、地域医療を支える先生方からより信頼される患者総合支援センターへ発展し続けたいと決意を新たにしております。

当センターは、入院・退院支援及び地域医療連携をはじめとした業務を多職種で、患者ファーストにて対応しております。各職種の強みを集結し力を発揮できるようセンター長として、体制・環境整備を行っており、ご紹介いただいた患者さんに満足いただける医療を提供できるよう取り組んで参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。



大阪市立大学医学部附属病院  
患者総合支援センター  
センター長 角 俊幸



# 新任教授のご紹介

## 令和3年度就任

はじめまして。大阪市立大学医学部附属病院膠原病・リウマチ内科の教授に着任いたしました橋本求と申します。

当科は、従来の旧・膠原病内科と旧・内分泌・骨・リウマチ内科のリウマチ部門を統合し、本年4月に新たに開設された診療科です。立ち上げスタッフは山田真介講師（旧・内分泌・骨・リウマチ内科より異動）、渡部龍講師（京大リウマチセンターより異動）、福本一夫講師（総合診療科兼任）、根来伸夫特任教授（旧・膠原病内科より異動）の5名で、様々な疾患に幅広く対応できるよう体制を整えております。

生物学的製剤や分子標的薬などの最新の薬剤を用いた治療も積極的に行っておりますので、膠原病疑いでお困りの患者さんがおられましたら是非とも当科までご連絡ください。



臓器器官病態内科学講座  
膠原病内科学  
橋本 求



病態診断・生体機能  
管理医学講座  
先端予防医療学  
渡邊 俊雄

2021年4月より、大阪市立大学大学院医学研究科先端予防医療学の教授を拝命いたしました渡邊俊雄です。当科はあべのハルカス21階にある先端予防医療部附属クリニックMedCity21において、消化器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、肝胆膵内科、産婦人科ならびに乳腺外科を専門とする専任教員が、附属病院の医師の応援をいただきながら健診事業と専門外来を行っています。

健診異常者は、疾患の稀少性、重症度あるいは居住地などを考慮し附属病院や各医療機関に紹介していますが、一部の患者は当科専門外来でもfollow upしています。また、各専門外来は基本的に附属病院からの紹介患者を診ていますが、私の専門であるピロリ菌除菌については他院からの紹介を受け付けています。自由診療になりますが、標準除菌治療不成功症例に対する三次、四次除菌やペニシリンアレルギー症例の除菌治療を行っています。健診ならびに専門外来の詳細は当科ホームページ (<https://medcity21.jp/>)をご参照下さい。

## 令和2年度就任

2020年4月より生活習慣病・糖尿病センター、骨・内分泌内科、腎臓内科の3診療科部長を拝命しております。糖尿病を中心とした肥満症・脂質・尿酸代謝疾患、甲状腺・副腎・下垂体の内分泌疾患、骨粗鬆症、糖尿病性腎臓病・腎炎・ネフローゼ・多発性のう胞腎・慢性腎臓病などを対象にEBMに基づいた最先端の診断・治療をおこなっております。

これら診療分野は、患者高齢化もあいまって地域医療の先生方との連携が今後ますます重要になると思います。軽症から重症まで幅広く対応すべく院内他診療科との緊密な連携のもとに高度な専門診療を提供してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



臓器器官病態内科学講座  
代謝内分泌病態内科学  
繪本 正憲



地域医療機関の先生方には、日頃より患者さんのご紹介をいただき、感謝申し上げます。当麻酔科・ペインクリニック科は、日々、手術の麻酔、慢性痛の診療・研究に励んでおります。手術件数の増加に加え、年々高度化、複雑化する手術医療において、安全・安心の麻酔・周術期管理をモットーに患者さんの期待に応えていく所存です。

ペインクリニック外来では、難治性疼痛や癌の痛みからの解放を目指し、神経ブロックを主体として薬物療法や最先端の医療などを取り入れて、他部門とも連携して、患者さんに合った治療法を提案しております。痛みの強い帯状疱疹、遷延する術後痛、神経障害性疼痛、脊椎疾患による痛み、頭痛、三叉神経痛などの様々な難治性疼痛、また癌性疼痛でお困りの場合はぜひご相談ください。

私は昨年度から当科を主宰することになりました。人間力の高い幅広い視野を持った麻酔科医を育成することに医局員全員で努めて参りたいと考えております。今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。



病態診断・生体機能管理  
医学講座  
麻酔科学  
森 隆



泌尿生殖・発達医学講座  
泌尿器病態学  
内田 潤次

大阪市立大学医学部附属病院泌尿器科は大阪市の泌尿器疾患に関する診療の中核を担っております。当科の特徴としては一般泌尿器科と腎不全をバランスよく取り扱っていることが挙げられます。最先端手術であるロボット支援手術や高度医療としての腎移植を実施しています。また、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤による最新のがん薬物治療や包括的腎不全治療の一環として腹膜透析、血液透析を実践しています。

専門医が多数在籍し、悪性腫瘍だけでなく、前立腺肥大症、排尿障害、男性科学など幅広く泌尿器疾患に対応できる体制を整えていることが大きな強みです。

当院と関連病院間、クリニック間との連携を密に行い、入院前、入院中、入院後の連続した治療を得意としています。

2020年4月より脳神経外科教授を拝命しております後藤剛夫です。今回は先生方に脳神経外科の紹介をさせていただきます。

私自身は長年、脳腫瘍の外科手術を専門としてきました。特に手術治療困難例に対する新たな手術法である頭蓋底外科手術および内視鏡手術を専門としてきました。また私たちの教室には脳腫瘍外科以外に脳血管障害、脳血管内治療、てんかん機能外科、脊髄脊椎外科、小児脳神経外科などすべての脳神経外科分野で活躍する優秀な教室員がいます。

脳卒中から脳腫瘍、てんかんなどの機能疾患まで地域医療に貢献できるよう教室員一同努力してまいりますので今後ともよろしく申し上げます。



感覚・運動機能医学講座  
脳神経外科学・脳神経病態学  
後藤 剛夫



# COVID-19対応について

新型コロナウイルス感染症に関する当院の対応については、多くの先生方から関心を寄せていただいております。

この1年の当院の対応について、新型コロナウイルス対策室長よりご報告させていただきます。



大阪市立大学医学部附属病院  
副院長  
新型コロナウイルス対策室長  
柴田 利彦

## 新型コロナ対応体制

当院は重症患者を担当してきました。タイムリーな情報開示に心がけ市大病院として各職種が共通認識の元に一丸となって対応できたと思います。

## 第1波から第3波

第1波時には緊急事態宣言下に外来通院患者さんへの投薬が問題となりました。独自の取り組みとして「電話受診・FAX処方」を行うため専用のコールセンターを設置し、3000人の患者さんに利用してもらいました。

大阪府新型コロナフォローアップセンターからの要請をうけて重症例のみの受入れを行いました。大阪では重症と中等症の患者を混在して診ずにすんだことが、第3波時に最大180名の重症患者が発生した状態でも対応できたと思います。大きな医療崩壊を呈することなく対応することができました。東京では大学病院が重症・中等症の両者に対応したため重症対応が逼迫したのと対照的です。

一時期は手術制限を行いました。第3波ではこれまでの経験を活かし病院機能の低下を最小限にしてきました。前年度の9割の手術数を2020年度通算として確保し特定機能病院としての役割をなんとか果たすことができました。



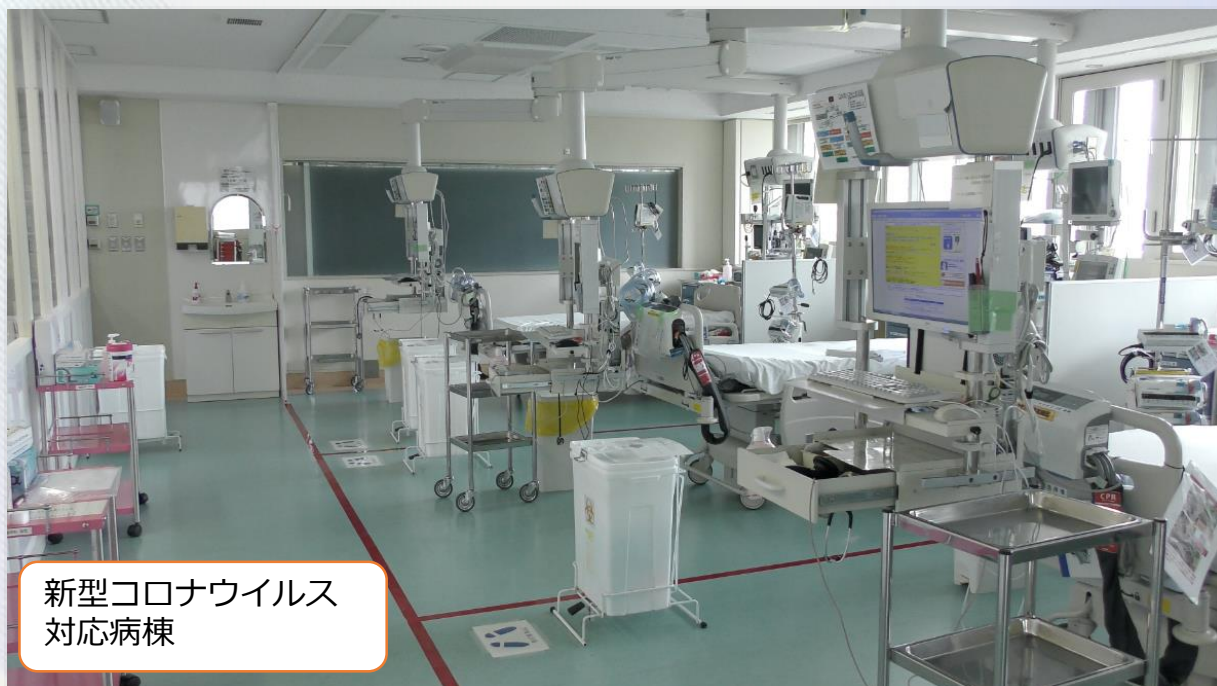
救命救急センターへの  
搬入の様子



## 第4波への対応

2021年春の第4波では予想以上の重症患者が発生し、10床から最大21床まで増床しました。医療者の感染防御を徹底し、院内環境汚染をしないことが必須であると考えます。重症病床を増やすには3つの準備が必要です。1：施設、2：人材（数と質）、3：備品・物資の3要素です。まず、集中治療室を新型コロナ対応に改修しました。収容する病室はゾーニングされた広い陰圧対応室が必要であり、単に個室を流用するだけではすみません。4病棟閉鎖をして看護師要員確保をしましたが、重症管理・人工呼吸に慣れた即戦力の人材が必要です。とくに4月は新人看護師が多く入職してきた時期であり、院内総力戦となりました。病棟閉鎖には時間も労力もかかりますし、患者さんにもご迷惑をおかけしたと思います。

単に新型コロナ病床を増床してもすべてが同じ質の医療・看護を提供することは困難です。第5波にむけてむやみに重症病床を増やすことに不安がありますが、様々な状況を想定して準備をしています。



新型コロナウイルス  
対応病棟

## 公的な役割

感染制御部は市大病院内のみならず、クラスターが発生した施設へ出向きその指導対策にあたりました。病院のみならず老健施設等への物資や知識の公的支援が是非必要と感じました。コロナ専用病院となった十三市民病院の援助のため10名の内科チームを派遣し、中等症患者収容数の増加に寄与しました。また、繁忙時には重症コロナセンターにも医師・看護師を派遣しました。

今年3月末からは医学部附属病院関係者等へのワクチン優先接種が始まり、他医療機関の従事者へのワクチン接種も医学部学舎内で協力して行いました。合計4800名（9600回）のワクチン接種を行いました。また、マイドームおおさか（大阪府）、インテックス大阪（大阪市）、阿倍野区民センター（大阪市）、大阪市大・府大での職域接種（杉本町）などに医師派遣を行いました。医学部学舎前ではPCR検査を行い保健所と協力体制を組みました。

基礎医学分野においては寄生虫学教室の城戸准教授が高感度の抗体測定システムを開発し、厚生労働省の大規模全国調査等においてもこのシステムが活躍しました。

大阪市内に存在する大学病院として、どのように社会貢献すべきかを職員全体で考えて実行してきました。このような貢献をするためには、やはり市大病院は今後も大阪市の真ん中にあり続けなければならないと思っています。第5波の到来を感じつつワクチンの重症化予防効果に期待しています。



# 大阪市立大学医学部附属病院「Face to Faceの会」アンケート集計結果

本年3月に医療連携登録医の先生方を対象に実施させて頂きました、「意見交換を目的としたアンケート」の結果をご報告いたします。

お忙しい中、たくさんの貴重なご意見を頂きまして、誠にありがとうございました。頂いたご意見は各診療科へも共有し、さらなる地域医療連携の強化に努めてまいります。

対象：医療連携登録医597名  
回答者数：183名 回答率:30.7%

## 各質問項目集計結果

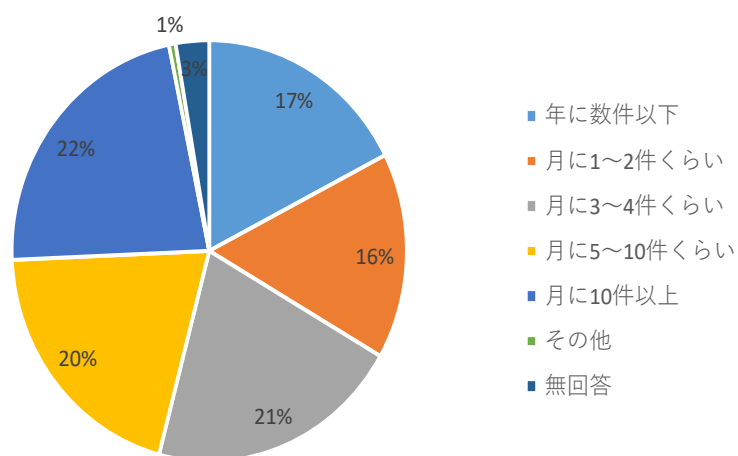
### ■1.市大病院との連携についての要望

ある	21%
ない	76%
無回答	3%

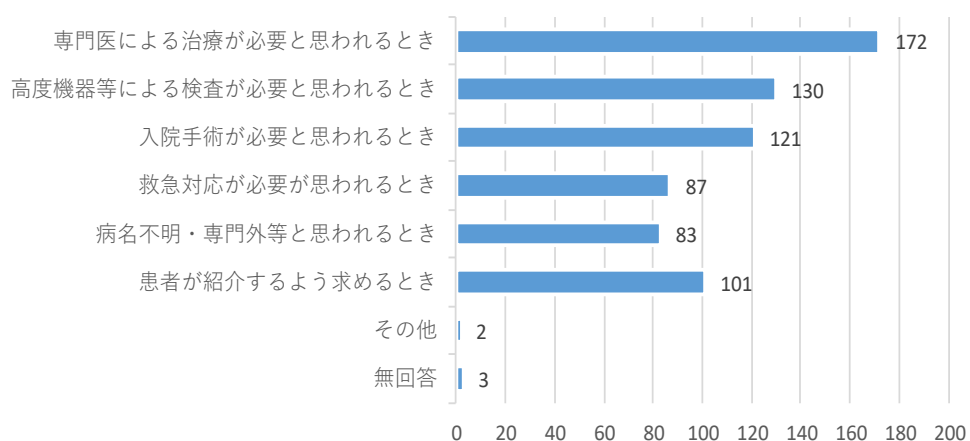
### ■2.市大病院を紹介先に選んだ時の予約

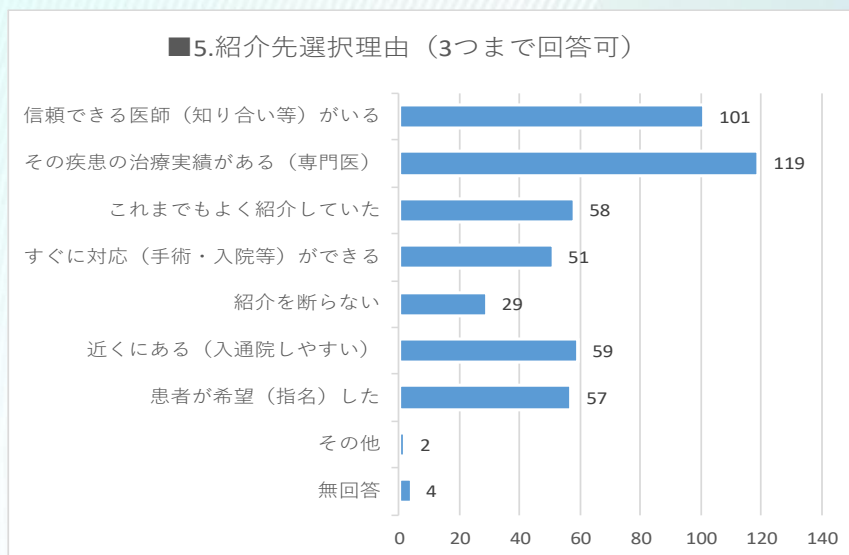
とれた	84%
とれたが希望通りでなかった	5%
取れなかった・予約外で受診させた	4%
他院へ紹介した	0%
無回答	7%

### ■3.患者さんを他の医療機関に紹介する件数



### ■4.他医療機関へ紹介する理由（複数回答可）





■6.市大病院に紹介後、市大病院からの最終報告

あった	87%
あったが遅かった	4%
なかった	3%
無回答	6%

■9.Face to Faceの会における講演希望科

ある	25%
ない	58%
無回答	17%

■7.市大病院へ紹介した患者さんの満足度

満足	51%
どちらかといえば満足	42%
どちらかといえば不満	2%
不満	0%
無回答	5%

■10.広報誌「患者総合支援センターたより」を見た

ある	73%
ない	20%
無回答	7%

■8.逆紹介頻度

逆紹介されている	36%
だいたい逆紹介されている	40%
ときどき・たまに逆紹介されている	11%
逆紹介されていない	6%
無回答	7%

■11.広報誌で知りたい情報

ある	8%
ない	65%
無回答	27%

## 自由記述欄 集計結果

■ご称賛

カテゴリー	自由記述欄 (市大病院との連携 についての要望等)	自由記述欄 (自由意見)	合計
1 職員対応関連	2	4	6
2 コロナウイルス関連	0	2	2

■ご要望

カテゴリー	自由記述欄 (市大病院との連携 についての要望等)	自由記述欄 (自由意見)	合計
1 予約の取り方	12	5	17
2 紹介後の報告	5	7	12
3 病診連携の強化	8	3	11
4 企画内容（センターたより、イベント）	3	4	7
5 待ち時間の長さ	1	4	5
6 コロナウイルス関連	0	3	3
7 その他	3	4	7





# 次回の「Face to Faceの会」について

次回は以下の通り、対面での開催を予定しております。奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催を見合わせる場合もございますのでご留意ください。

詳細が決まりましたら改めてご案内させていただきます。

## 第44回 大阪市立大学医学部附属病院 医療連携 Face to Faceの会

日時：令和3年11月（予定）  
15時～17時

場所：あべのハルカス

演題：未定

第43回 大阪市立大学医学部附属病院  
医療連携 Face to Faceの会  
(令和3年8月開催)

【お問い合わせ先】  
大阪市立大学医学部附属病院  
患者総合支援センター（担当：餅田、倉野）  
TEL：06-6645-2857  
E-mail：i-soudan@med.osaka-cu.ac.jp